

9 The Golden Vanity

1. 歌の時代背景

このバラードの初期のヴァージョンは、“ローランド海を航海するサー・ウォルター・レイライ”として、1635年頃に世に出た。“スウィート・トリニティ”と呼ばれたこの有名な船が、どうして偽のガレー船に捕らえられ、そしてこのガレー船を沈めた一人の海洋少年の巧みな技によって、何故再び復活したのかを明らかにしている。このバラードは、初めて1685年6月～11月に出版が許された。

この曲は、偽のガレー船に捕らえられ、再び復活した有名な“スウィート・トリニティ”についてのものである。この曲の中で、レイライは傲慢で、利己的で、恩知らずの男として描かれている。女王の為に、水たまりの上に自分のマントを置いた廷臣とは全く対照的に。

このバラードは、チャイルド・バラード“The Sweet Trinity”です。一般的にはシャンティとしては考えられていませんが、Stan Hugill はこれをポンプ及びキャプスタン・シャンティとして歌いました。

註) ガレー船は古代ギリシャ・ローマ時代の帆船ですが、船足を早めるため、大勢の奴隷や囚人を漕ぎ手に使っていました。

2. 歌詞の日本語訳

ローランド海を専ら航海していた一隻の船があった、
俺達の船の名前は、“ゴールドデン・ヴァニティ”、
そして俺達は、この船がローランド海を航海中に、敵のスペイン船に捕らえられることを恐れていた、
ローランド、ロー
この船がローランド海を航海中に。

その時俺達のキャビンボーイが歩み寄ってきて、
無遠慮に、大声を出していった
この子は俺達の船長にこう云ったんだ、
”もし、僕が敵のスペイン船の舷側まで泳いでいって、そいつをローランド海に沈めたら、船長は僕に何を褒美にくれますか？”とね、
ローランド、ロー
そいつをローランド海に沈めたら。

”ああ、私はお前に銀貨をやろう、そして私はお前に金貨もやろう、
それから私のとびきりべっぴんの娘を、お前の美しい花嫁にしてやろう、
もし、お前が敵のスペイン船の舷側まで泳いでいって、
そいつをローランド海に沈めたら、
ローランド、ロー
そいつをローランド海に沈めたら、

それから船長は、この子に準備をさせた、
この子は海中に飛び込んだ、
そして、敵のスペイン船の舷側まで泳いだ、
この子は、栗子きりを使って、敵の舷側に穴を三つあけた、
そしてローランド海にやつを沈めてしまった、
ローランド、ロー
この子はローランド海に敵の船を沈めてしまった。

私達の手元にある"Golden Vanity"の曲はここで終わりですが、実はこの歌には未だ続きがあります。すなわち、敵のスペイン船を沈めた少年は、すぐに他のクルー達の歓呼に迎えられて、泳いで戻ってくるのですが、船長はこの少年に一切注意を向けなかった。

少年にした約束にも後悔した。そして、少年は約束を果たすよう大声で訴えたが聞き入れられず、それどころか少年は海に取り残された。少年は、このままだと潮に流され、溺れて沈んでしまうからと仲間に、船に引き上げてくれるよう訴えた。

そしてやっとの思いで、仲間のクルー達によって、船の上に引き上げられるが、少年は甲板で死んでしまう。

仲間は少年をハンモックに縫い閉じて、水中におろし、少年の亡骸は、そのまま潮に流されて、ローランド海に沈んでいく処で結末となります。

処で、この歌の中に度々出てくる、LOWLAND LOW、LOWLAND SEA は北海及びバルチック海に隣接した、海面より低い、低地地域あるいはその周辺の海域のことを指すようです。具体的には、主としてオランダ、ベルギー、ドイツの国土の一部が該当します。

解説・日本語訳：宮崎多加雄